石和こどもクリニック

大分県大分市羽屋１丁目５番７号
URL：https://ishiwa-cl.com

小児科専門医による診療で子どもたちの健やかな成長を支える『石和こどもクリニック』。その確かな診療内容はもちろん、些細な不安をはじめ何でも気軽に相談できる雰囲気が魅力だ。2025年３月にリニューアルオープンし、親子で安心して通えるかかりつけ医としてさらに地域医療に貢献していく。本日は、二代目院長の石和氏にタレントのダンカン氏がお話を伺った。

かかりつけ医として地域の子どもと家族に寄り添い家族の未来を一緒に築いていきたい

――石和院長は、『石和こどもクリニック』さんの二代目だそうですね。

小児科医の父が1999年にこの場所で『石和こどもクリニック』を開業しました。仕事に没頭する父の姿から受けた影響は大きく、やりがいのある仕事として魅力を感じていましたし、また高校時代は医学部を目指す仲間が多かったんです。自然と医師の道を志しました。

――先代と同じく小児科を選択されて。

もともとは救命救急科を志望していましたが、研修医として様々な科を経験する中で最後にまわった新生児科に魅了され、自身の人生を小児科学の道に注ぎたいと感じるようになりました。一切の迷いも一点の曇りもない純粋な「救いたい」という気持ちで、医師として全力で向き合えるんです。

――小児科医として、幅広いご経験を積んでこられたのでしょうね。

地元の大分大学医学部医学科を卒業後、神戸大学医学部附属病院、済生会兵庫県病院で４年間勤務し、さらなる経験を求めて医師５年目に上京しました。『日本赤十字社医療センター（東京本社）』の小児科では病棟医長を務め、主に集中治療室にて先天性心疾患を患う子どもたちの集学的治療に明け暮れる日々でした。その後は、国内最大規模の小児病院である『国立成育医療研究センター』で、難治性腎疾患を患った子どもたちの治療（腎移植など）に従事しました。日本の小児領域において先進医療を牽引する多くの先生方と過ごした日々は刺激的で、今の自身の診療に向き合う姿勢に多大な影響を与えています。東京では約10年間にわたって、小児の一般診療から集中治療室における最重症例まで幅広く、ひたすら臨床経験を積みました。

――どういった経緯でこちらに？

東京では大きな難題に取り組むチーム医療の一員として非常に充実した日々を過ごしていましたが、これまで培った経験や知識を踏まえて、個人でどこまで医師として社会に貢献できるのか、より患者さんに近い距離で診療に取り組みたいと考えるようになりました。首都圏で得た知見を地元の大分に還元できればと帰郷し、2022年から先代である父とクリニックで２年間一緒に働いた後、継承いたしました。もともと駐車場だった場所に新たにクリニックを建て直し、2025年３月31日にリニューアルオープンいたしました。

――新しいスタートですね。子どもたちをはじめ来院するご家族がほっとする内装で素敵です。

ありがとうございます。当院は、「正しい医学」と「暖かい医療」を通じて、お子さまに「健康」を、ご家族に「安心」を提供することを診療理念に、日々の診療に取り組んでいます。医学的にはストイックに正しい知見を深める一方で、提供する医療は柔軟性を持ち、ご家族に寄り添った暖かいものであるべきと考えています。お子さまの病気を治すことはもとより、ご両親に安心していただけるよう丁寧で分かりやすい説明を日々心掛けることが、小児科医の務めだと思っています。

――お子さんだけでなくご家族に寄り添う小児科医を志されているのですね。リニューアルオープン後はいかがですか。

ありがたいことに多くの方々が来院くださっており、やりがいを感じています。当院が、地域で暮らす人々の何気ない日常を支えるインフラの一つとして根付いていけたら本望です。日々支えてくれている家族、スタッフ、現在も繋がりがある神戸・東京にいる諸先輩方、友人、継承させてくれた先代への感謝の気持ちを抱きながら、自分なりの『石和こどもクリニック』を紡いでいきたいと思います。

（2025年８月取材）

「リニューアルオープンされてまだ間もない『石和こどもクリニック』さん。とても広くて清潔感があり、そして動物やキャラクターをあしらった外観・内観が、子どもたちの不安を和らげてくれそうです。末永く、地域の方々を支えていかれてください」　ダンカン・談

© 2025 HOUDOU-TSUSHINSHA Co.,Ltd.